

# 三陸新報

## 漁業学べるソフト開発

魚普及会  
と富士通

### 15日から小学校で授業

気仙沼

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会(会長・白井壮太郎(白福本店社長))は、魚の旬や漁業者の仕事などを学べる学習ソフトを富士通と共同で開発し「写真」。これを使った特別授業が今月から市内の小学校で始まる。

開発したソフトでは、三陸沖に好漁場ができる理由や食文化、漁獲から水揚げや加工などの手を経て魚が、食卓に上るまでの過程も学べる。

操作に使うタブレット端末は子供でも簡単に扱え、興味を持った項目から進んで学ぶことができる。15日の小原木を皮切りに大島、白山、唐桑で行われ、いつでも学べるよう、各校にタブレット端末などを貸し出す。

白井会長は「将来を担う子供たちにこのソフトで水産業を広く知ってもらい、今後の地域を支えてほしい」と話している。ソフトやマニュアルは8日にインターネット上でも

公開を予定している。同会は昨年、小学生を対象にマグロ漁船見学会や、有名シェフらと協力して開発した「メカジキメンチコロッケ」を、市内全小学校の給食に提供したりするなどの活動を展

開した。活動は、復興導モデルにも選ばれて庁の「新しい東北」先いる。



世界主要